

中学校3年生の皆さんへ

過去、指導した生徒の中にこんな男子選手がいました。

身長120cmくらい、体は細く体力はみんなの半分くらい、双子で卓球部に入ってきました。夏休みまでともにラケットにボールが当たらず、空振りばかり、ボールが相手コートに入ってもパワー不足のため「ポヨン」としたスピードが感じられない球でした。「なんとか、元気に3年間部活動続けてくれたらいいかな？」彼らが1年生の夏休み頃、そんなことを心の中で思いました。しかし、その双子の努力はすさまじく、毎日の朝練参加、放課後・休日は誰よりも早く練習場に来て自主練習、練習のない日は市の体育館へ行って練習・・・少しずつ上達し、パワーもついていきました。部内ランク20人中最下位であった2人が、3年生の春には団体戦レギュラー圏の6、7番手まで上がってきました。最後の団体戦は双子でダブルスを組み、チームのピンチを何度も粘り強く救ってくれました。その陰には保護者の理解と献身的なサポートがありました。「なんとか、3年間続けてくれれば・・・」そんなことを一瞬でも思った自分が恥ずかしくなりました。「可能性は自分が広げていく、他人が決めるものではない」卒業後、別々の高校に進学し、それぞれ卓球を続け、この春大学に進学。そんなに強くないが「卓球が好き」その思いで大学でも卓球部に入っています。本当にうれしい。指導者としてうれしい。そんな経験をたくさんの指導者の方がしています。誰しもそんな生徒を見ると全力で応援したいと思います。どんな困難にも立ち向かう逞しい人を応援したい。

小さい頃からラケットを握り、県大会・近畿大会・全中を目指してきた人、中学校から競技をはじめ努力を続け、市郡町大会の1回戦突破、ベスト8、県大会・近畿大会・全国大会出場を、団体戦の上位進出等を目標に頑張ってきた人、それぞれが目標にしていた最後の大会が、無くなってしまった喪失感、無力感は計り知れないものがあると思います。「〇〇さんに最後は勝ちたい！」「〇〇大会まで進む！」「こんなプレーをしたい」「先輩や保護者、顧問の先生、クラブチームの指導者に恩返しをしたい」・・・様々な思いがあったと推察します。その思いは、立場は違っても指導者や保護者も同じです。「〇〇さんの最後の頑張りを見てみたい」「3年間の成長が楽しみだ」「息子、娘の最後の試合は必ず応援に行く！それが親のできること」そんな方々がたくさんいらっしゃいます。皆さんを含む、みんなが残念で悔しかったのです。

「コロナに負けない」の本当の意味は「コロナで希望、やる気を失わない」ことだと考えます。

各地区、市郡町で代替試合の検討がされているようです。もしも開催されれば、全力で3年間の思いを込めて1球1球に向かってください。もしも代替大会が行われなかった場合でも、今までの自分の頑張りを振り返り、称え、仲間や指導者、保護者に感謝を伝え、全力で次の目標である進路実現に向かってください。そして、中学校3年生のみなさん、是非、高校でも卓球を続け希望を持ち、目標に向かう若者になってください。困難に立ち向かい、悔しさをかみしめ、辛抱し、それを乗り越えようとした力を次のステージで発揮してください。

中学校1、2年生の皆さんへ

長期休校明けで、学校生活は始まったばかり・・・。1年生は、まだ入部すらしていない学校も多いと聞いていますが、徐々に活動が拡大され、部活動が全力で行える日を楽しみにしてください。2年生は、初めての「先輩」です。新入生が入部したら優しく、丁寧に素振りの仕方やラケットやラバーの特徴など教えてあげてください。ただ、新型コロナウイルス感染の脅威が全て無くなったわけではありません。感染予防について各市郡町、各学校の指示に従って、十分注意をして練習してください。また日本卓球協会からもガイドライン（2020.5.30）が示されています。クラブチーム、学校を含むすべての卓球競技者は意識して活動する必要があります。今は我慢の時期、少しずつ練習が拡大され、少しずつ皆さんが上達し、少しずつ日常が戻り、みんなが安心して大会に参加できる日を、これから出会える日を楽しみにしています。